

# 大学のグローバル化と輸出産業化する高等教育の動向 ——ロシアのケースについて

松 本 かおり

## はじめに

20世紀末からの世界の教育市場におけるグローバル化は、1992年にソ連が崩壊し、経済分野に市場原理が導入された時期と重なる。この時期は旧ソ連社会全体が混乱していたのだが、未来の社会の担い手を育てるための教育分野への市場原理の導入と現場の混乱も例外ではなかった。

筆者は国立研究大学高等経済学院<sup>1)</sup> 社会学部の高等教育の専門家である I. パヴリユートキン准教授に、グローバル化と市場原理の導入が同時におこなわれることになったロシアの高等教育のゆくえについてのインタビューを行った（2012年2月実施）。その時にロシアの大学の市場化について研究するための参考書として推薦されたのは、意外にもロシアの高等教育にかんする書籍ではなく、B. レディングズの『廃墟のなかの大学』（レディングズ：2000=1997）であった。ソ連時代には教育機関がすべて国立であったロシアにも、すでにレディングズが描いた大学の「アメリカ化」、すなわち「エクセレンス」のディスクールが広まりつつあることを、パヴリユートキン准教授は示したかったのかもしれない<sup>2)</sup>。もう少しわかりやすい言葉で述べるとすれば、ロシアの大学はアメリカの大学と同様に、「国家のイデオロギー的部門から、官僚的に組織された相対的に自律的な消費者中心的企业体（レディングズ：2000=1997; 15）」に変化しつつあるということが、ロシアの教育社会学者の間でも強く意識されているということだ。

そこで本稿では、社会主義体制からの移行期に、教育への市場原理の導入と高等教育のグローバル化に直面したロシアの高等教育の輸出産業化、すなわち留学生の動向という観点から検討し

---

1) 国立研究大学高等経済学院は、ロシアの大学の市場化の最先端にある大学である。ソ連のマルクス・レーニン主義による経済学教育が当時の政治的経済的現実と合っていないことから、モスクワ大学経済学部の教員グループがソ連崩壊直前の1992年に設立した大学で、ロシアの錚々たる経済学者が教鞭をとってきた。現在ロシアトップクラスの大学である。元経済大臣 E. ヤーシン、副首相、経済大臣などを歴任したショーヒン（現在は学長）らが教授陣に名を連ねている（Национальный исследовательский университет: Высшая школа экономики ホームページ）。

タイムズ・ハイアー・エデュケーション世界大学ランキング（THE）2018の結果によれば、世界で351-400位、ロシアで4位にランキングされている（THE World University Rankings ホームページ）。世界大学学術ランキング（ARWU）2017の分野別の結果では、社会学は世界で51-75位、ロシアで1位、政治学は世界で101-150位、ロシアで1位、数学は世界で101-150位、ロシアで2位、経済学は世界で201-300位、ロシアで1位である（Academic Ranking of World Universities ホームページ）。

2) レディングズ（2000=1997）がいうところの「アメリカ化」とは、大学が国民文化の担い手としての役割を失い、金銭的な結びつき（cash nexus）というルールによる組織体になっていくことを指している。大学の中心人物はもはや教授や学生ではなく、管理者（経営者）であり、学生はサービスを受けると消費者である。「エクセレンス」については、何度もさまざまな表現で説明が試みられているが、例えば学問分野だけでなく、大学の施設など全くカテゴリーが異なる分野のことまでもが同じ尺度の中に統合され、本質的な内容がないにもかかわらず、まるで科学的客観性を持っているかのように指標化されている評価基準のことを指していて、この基準は大学の統一原理として、今日の世界の大学ランキングにつながっている。

てみたい。最後に、同じく英語圏ではない日本の留学生政策に対する教訓についても考察したい。

## I ソ連崩壊とロシアの高等教育

### 1 西欧の制度の導入

ソ連崩壊後にロシア経済への市場原理の導入を指導したのは、IMF や世界銀行（World Bank）といった国際機関であったが、教育についても同様の国際機関が大きな役割を果たした。ゴウンコら（Gounko: 2007）が、体制移行期のロシアの教育行政に対する世界銀行（World Bank）と経済協力開発機構（OECD）の影響を検討した。その結果、競争と財政運用を教育改革の中心とする国際機関主導の教育近代化プログラムの実施は、ロシアの教育に対して大きな影響を与えた。これらの機関は、財政支援、調査、政府に対するアドバイスなどをしながら、教育システムの作成をおこなった。特に World Bank は、ロシアの公的高等教育の財政基盤強化のために、原則無料であった授業料の導入、学生ローンや援助プログラムの設置、民間投資の受入などを提案し、それらの政策実行を支援した。OECD は西側の規範を示して、ロシアにそれをあてはめようとした。World Bank の基準は、援助に頼っていたロシアに対して強制的な圧力になった。すなわち、ラヴィーニュが指摘するような「ワシントン・コンセンサス」にもとづく「ひもつきあるいは条件つき（ラヴィーニュ：1995=2001）」の援助方法は、経済分野だけでなく教育分野に対しても同様であったといえる。

ロシアがボローニャ・プロセスに加わったのは2003年のことである。ボローニャ・プロセスへのロシアの取り組みに対する評価は低位にはある（舘：2010）とはいえ、このプロセスにロシアが加わったということは、ロシアが世界の高等教育市場に参入する意欲を示したものである。例えば、日本の小学校から高等学校にあたるロシアのシュコーラ（школа）は一般的に11年制で、日本の12年より1年少ない。その一方で大学は伝統的に5年制であった。しかし、欧米諸国の大学との単位互換制度などを進めるために、現在は欧米の大学制度に合わせて、大学の4年制化が進められている。現在は4年制と5年制が混在している状況で、4年制卒業者の学位は「バカラーヴル（Бакалавр）」、5年制卒業者の学位は「スペツィアリテート（Специалитет）」と区別がなされている。この制度変更には、伝統あるロシアの高等教育制度を変更することになったとしても、国際的な交流の深化、国家をこえた学生の移動、うまくいけば教育の輸出産業化のきっかけを作りたいという意図が感じられる。

### 2 ロシアの大学ランキング

ロシアの高等教育機関が西側の基準に合わせて行動しようとするインセンティブのひとつになっているのが、世界大学ランキングである。【表1】と【表2】では、2つの代表的調査機関が作成したロシアの大学ランキングを示したが、機関によってランキングが大きく異なること、現在ロシアの大学はほとんど100位以内に入っていない状況がわかる。

【表1】世界大学学術ランキング（ARWU）2017による  
ロシアの大学ランキング

| 大学名             | 順位      |
|-----------------|---------|
| モスクワ国立大学        | 93      |
| サンクト・ペテルブルク国立大学 | 301-400 |
| ノヴォシビルスク国立大学    | 401-500 |

Academic Ranking of World Universities ホームページより筆者作成。

【表2】タイムズ・ハイアー・エデュケーション世界大学ランキング（THE）2018による  
ロシアの大学ランキング

| 大学名             | 順位      |
|-----------------|---------|
| モスクワ国立大学        | 194     |
| モスクワ物理工科大学      | 251-300 |
| トムスク工科大学        | 301-350 |
| 国立研究大学高等経済学院    | 351-400 |
| カザン連邦大学         | 401-500 |
| 国家研究原子力大学       | 401-500 |
| ノヴォシビルスク国立大学    | 401-500 |
| サンクト・ペテルブルク国立大学 | 401-500 |

THE World University Rankings ホームページより筆者作成。

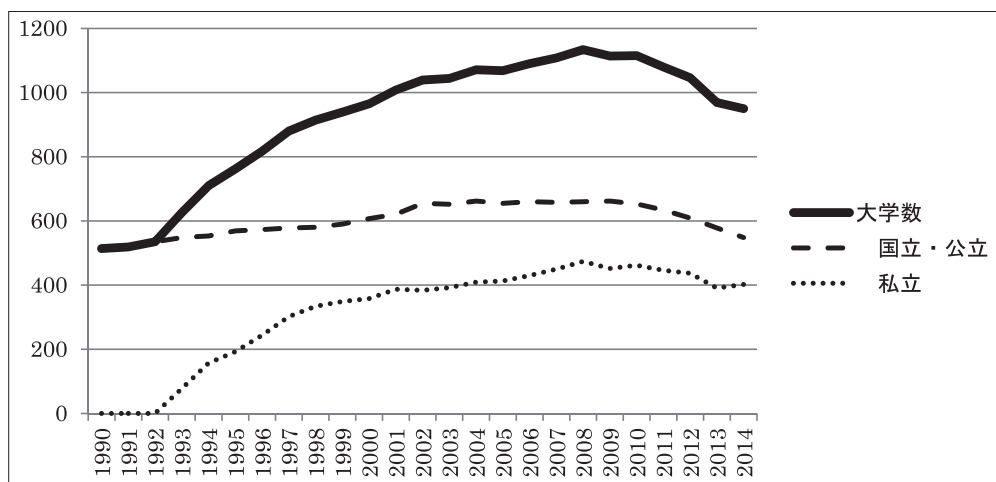
世界ランキングの問題点については石川（2016）に詳しいが、日本と同様に英語圏ではないロシアは、ロシア語で書かれた論文が評価対象にならないために、ランキングにおいて不利な状況にある。しかし、ロシアが教育の輸出産業化、グローバル化を進めるにあたって、このランキングを無視するわけにはいかない。ランキングのデメリットがどれだけ挙げられたとしても、どの大学もその流れに逆らうことができずにいる。ソ連崩壊後、国家の財政的支援が期待されないとすれば、この流れに抗うことは大学の倒産につながる恐れがあり、どの大学も競争から降りることはできない状況にある。

ロシア連邦教育科学省は、グローバル市場においてロシアの大学が世界でリーダー的地位につくことができるように「プロジェクト5-100（Проект 5-100）」を実施し、2020年までに世界の大学ランキングの100位以内に5大学が入ることを目標にしている。現在、このプロジェクトのリーダーとなる大学として、極東連邦大学、上述した国立研究大学高等経済学院、サンクト・ペテルブルク国立情報技術機械光学研究大学、サンクト・ペテルブルク電気工科大学など、ロシア国内の21の名門大学が選定され、ランキングの向上を目指している<sup>3)</sup>。日本でも2013年に文部科学大臣が、世界大学ランキング100位以内に日本の大学を10校入れるという目標をたて、2014年に「スーパーグローバル大学創生支援」事業が開始されたという全く同様の政策がある。（荻谷：2016）。

3) Министерство образования и науки Российской Федерацииホームページ

### 3 ソ連崩壊後のロシアの大学の変化

以下にソ連崩壊後のロシアの高等教育機関を概観してみよう。ソ連崩壊前の高等教育機関はすべて国立で、その数はおよそ500校であった。それが1992年末のソ連崩壊直後の1993年以来、大学の設立ラッシュとなった。1993年に初めての私立大学があらわれたが、その年だけでも78校もの私立大学が設立された。国立・公立大学も13校増えた。その後1998年の経済危機前後に若干設立のペースは落ちたが、それでも着実に増加を続け、2001年には国立・公立大学は621校、私立大学は387校で、合計1008校と1000校をこえた。ただし、2008年の1134校をピークにその後は減少し2014年には950校となった。その間、国立・公立大学が112校、私立大学が72校減少し、特に国立・公立大学の減少が目立つ【図1】。2010年代の国立・公立大学の減少は、2010年代初めに国立大学の大きな再編（統合）があったことと関連しているのだろう<sup>4)</sup>。



РОССТАТ. Российский статистический ежегодник - 2003г.

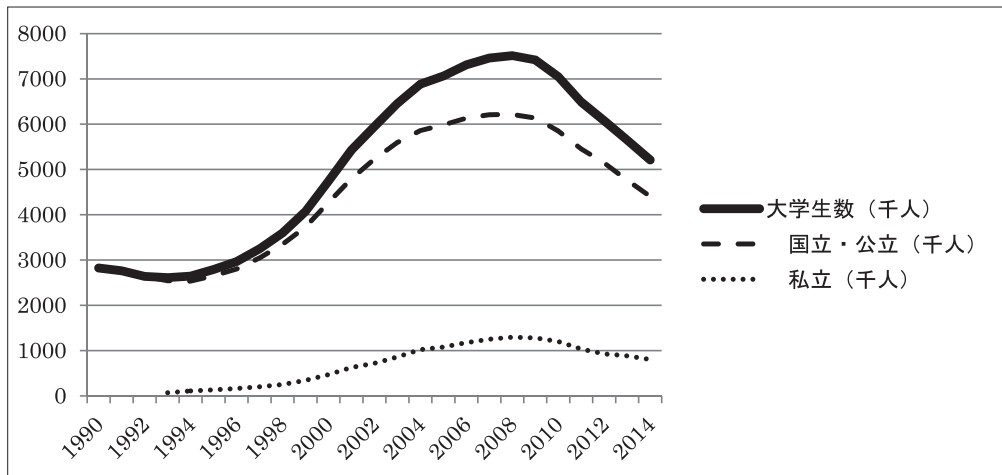
РОССТАТ. Социальное положение и уровень жизни населения России - 2009г., 2015 г. より筆者作成。

【図1】ロシアの高等教育機関数の推移

大学生数も大学数と同じような推移をたどった。1993年に私立大学の創立と同時に7万人の私立大学生があらわれた。そして2008年のピークには751万人となり（国立・公立621万人と私立130万人）、1992年の264万人（国立・公立のみ）とくらべると約2.8倍に増えた。2014年度には521万人（国立・公立441万人、私立80万人）とピーク時の69%となっている【図2】。大学に進学する年齢である15-19歳の人数は2003年の1279万6千人をピークに減少し続けている（Российский статистический ежегодник -2010г., 2016г.）ことから、少子化は最も大きな要因であろう。

このような高等教育機関数と学生数の推移について若干考察を加えると、まず1993年以降の増加の原因はソ連時代の大学数が国民の需要に比べて少なかったことと考えられるだろう。日本のように大多数が18歳で大学に入学するわけではないロシアでは、高校卒業時点での進学率という考え方では十分ではない。しかし、参考までに確認すると、25-29歳の高等教育卒業の学位を持つ者の割合は、2002年の21.4%から2015年の40.9%へと上昇している（Российский статистический ежегодник -2016г.）。

4) 例えば、ウラジオストクにある極東連邦大学は、極東国立総合大学、極東国立工業大学、太平洋国立経済大学、ウスリー国立教育大学の4大学が統合されて、2010年に1つの大学として誕生した。（Дальневосточный федеральный университетホームページ）



РОССТАТ. Российский статистический ежегодник - 2003г.

РОССТАТ. Социальное положение и уровень жизни населения России - 2009г., 2015 г.より筆者作成。

【図2】ロシアの高等教育機関学生数の推移

кий ежегодник 2003г., 2016г.)。すなわち少ない国立大学だけの時代には進学をあきらめざるをえなかった若者も進学することができるようになった。この需要には徴兵制の影響も大きいことを忘れてはならない。大学生であれば入隊が延期されるため、大学進学を目指す若者もいる。従来は国立大学に入学できなければ入隊しなかったのだが、私立大学は入隊を希望しない若者の受け皿になることができる。ただし、私立大学については、設立当初、ビジネスやマネジメントなど経済分野の学部しかなかったこと、独自の施設がなく間借りがほとんどで図書館もなかったこと、多くの教員が国立大学との兼務でパートタイムとして教えていたことなどの問題点は指摘された (Kodin: 1996)。すなわち私立大学の増加が、単純に高等教育の充実につながったわけではないことを留意しておくべきだろう。

## Ⅱ 高等教育のグローバル化とロシアの留学生

### 1 学生の国際移動の要因

国際的な交流を目指した高等教育制度の変更、世界ランキングへの挑戦は、国の威信をかけたプロジェクトとして政治的な意義があるだけでなく、先述したとおり若年人口減少時代の留学生獲得という経済的な意義も含まれている。まず留学生はどのような条件を考慮して留学を決めているのか確認しておこう。

松塚 (2016) は、学生移動の意思決定要因として、OECD の調査結果を参考にしうえて、以下の要因をあげている。

- (1) 授業で使用する言語が英語、フランス語、ドイツ語など世界的に広く使用されている言語であること。
- (2) 留学先の授業料と物価が負担可能な範囲であること。
- (3) 留学生の移民政策が緩やかであること。
- (4) 特定の教育機関や教育プログラムの学術的評価の高さ。

- (5) 国外で取得した単位を卒業単位に換算可能かというプログラムの柔軟性。
- (6) 出身国において大学進学のための機会が限られている。
- (7) 出身国の大学入学基準が厳しい。
- (8) 受入国との地理的・歴史的関係や交易上の関係。
- (9) 就職への展望。
- (10) 出身国と受入国の大学間で単位互換を促進する政府レベルの政策。

そのうえで、これらの要因のすべて、あるいは大部分を満たす国はないという結論に至っている。つまり、いずれの国への留学であっても、メリットとデメリットが混在しているということだ。

上記の要因を参考に、留学生から見たロシアのメリットを考えてみよう。ソ連時代から自然科学の基礎的研究や数学などの分野が評価され、世界で初めて宇宙に人間を送り出した国であったという点では(4)、不十分ではあるがボローニャ・プロセスへの参加という点で(5)、まだ高等教育制度が十分に整わない国が近隣にある点で(6)、温度差はあるがまだ旧ソ連諸国のいくつかの国とはつながりが深く、ロシア語話者が多い国が周辺にあるという点で(8)と(10)、近隣の発展途上国よりもモスクワなどの都市があり就職のチャンスを見出せる可能性があるという点で(9)を満たしている部分もある。(2)の物価については、首都であるモスクワは高いが、地方都市という選択肢を考えると、他の先進国と比べて高いわけではない。(3)については、比較的ビザの取得が難しく厳しいが、留学生獲得を目指す大学を通せば比較的容易になってきたといえるだろう。

デメリットとなりうるのは(1)で、英語圏ではなく、ロシア語が使われているという点だ。ただし上述した「プロジェクト5-100」の大学では自然科学系が多く、英語の授業を提供している。社会科学系の大学である国立研究大学高等経済学院であっても、ロシア語話者の減少を見越したうえで、「修士課程」には英語で受講できる科目を導入している。(Нефедова: 2017)。前述のパブリュートキン准教授もアメリカのマंचェスター大学の修士課程で学位をとってきており、最近ではアメリカで学位をとってきた若手研究者が目立つ。

同じく国立研究大学高等経済学院ではThe MOOC (massive open online courses)<sup>5)</sup>にロシア語だけでなく英語による講座を開講し、ロシア語の講座と英語の講座の受講者の比較調査を行っている。その結果、ロシア語の講座の受講者の居住地は、ロシア(69%)、ウクライナ(10%)、ベラルーシ(3%)とCIS諸国にほぼ限られているが、英語の講座の受講者の居住地は、アメリカ(25%)、インド(9%)、ロシア、EU諸国、カナダ、ブラジル(7%)と広範囲で、英語講座の輸出可能性が高いと結論づけられている。また、英語による講座の受講者の学歴はロシア語による講座の受講者よりも高く、講座についての予備知識をすでに持っているものが多く、修士以上の学歴をもつ者は前者で57%、後者で36%であった(Kuzminykh: 2015)。オンラインによる講座によって知識は容易に国境をこえることができるようになった。英語帝国主義と言われ、英語による学習の弊害が指摘されることも多く、英語による授業が学問のレベルを下げるという指摘もあるが(清水: 2015)、ロシアでも世界中に広く大学の研究をアピールできるという意味では英語は有効な手段と認識されている。英語が日常生活で使用されている国は、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアくらいであり、ほとんどの国が非英語圏としてロシアと同じ立場にあり、ロシアだけが不利なのではない。

5) 無料で学ぶことができるオンライン学習サービスで、2012年に誕生し、世界中の高等教育機関がさまざまな講座を提供し、日本をはじめ世界中に広がっている。講座の修了書を受け取ることもできる(JMOOC ホームページ)

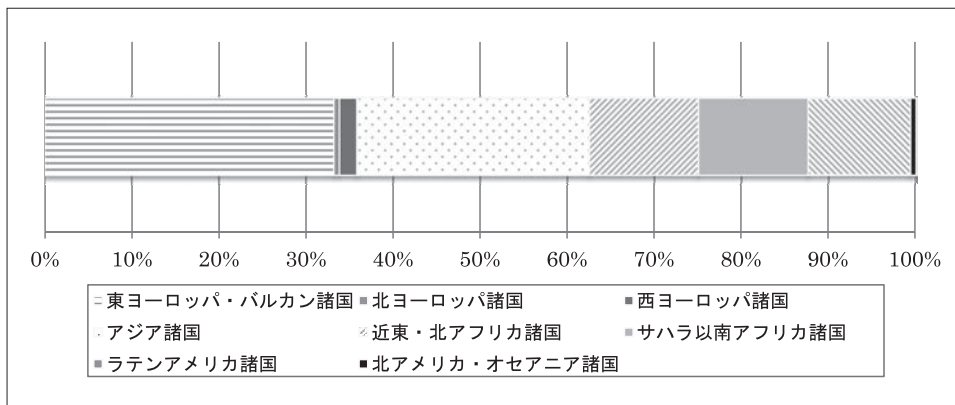
## 2 ソ連時代の留学生

ソ連崩壊直前の1989年度の留学生数(126.5千人)は、アメリカ(419.6千人)、フランス(136.9千人)に続く第3位で、世界の留学生数の約11%を占めていた。いわゆる経済的な意味での留学生市場が形成されていなかった時代のことである。1990年度の留学生の主な出身国は、モンゴル、ベトナム、アフガニスタン、キューバ、シリアなどアジアの発展途上国で、中東地域や東ヨーロッパからも含めた友好国(多くは社会主義国)からの留学生も多かった【表3】。出身地域のデータからは、ソ連と近東・アフリカ諸国との関係の深さが目につく。留学生の出身地域の60%以上が、アジア、アフリカ、ラテンアメリカである。ブルガリアやポーランドのような東ヨーロッパからの留学生は約3割を占めた【図3】。ソ連では学費が無料であったことを考え合わせると、留学生の受け入れは経済政策という意味合いでは全くなく、友好国との関係を深めるといって、西側諸国に対抗するための外交政策・戦略を反映したものであったことを十分に読みとることができる。(Арефьев А.Л.ほか:2014)。

【表3】ソ連の高等教育機関への留学生の出身国(1990年度)

| 国       | 人数(千人) |
|---------|--------|
| モンゴル    | 8.8    |
| ベトナム    | 6.7    |
| アフガニスタン | 6.1    |
| キューバ    | 6.1    |
| ブルガリア   | 5.4    |
| シリア     | 5.0    |
| イエメン    | 3.6    |
| エチオピア   | 3.5    |
| レバノン    | 3.4    |
| ポーランド   | 2.0    |

Арефьев А.Л.ほか:2014, c.12より筆者作成。



Арефьев А.Л.ほか:2014, c.11より筆者作成。

【図3】ソ連の高等機関への留学生の出身地域(1950年度から1985年度の合算)

これはアジアの経済大国となった1980年代の日本が「留学生10万人計画」を立ち上げて、援助の一環として留学生政策を進めようとしたころの理念と重なるようにみえる。しかし、1921年に人民革命をなしとげたモンゴルからの留学生を、ソ連は自国でまだ内戦が続いて混乱が収拾されていなかった同年に、すぐに受け入れていた（ミャグマル：2016）。ソ連の留学生戦略は日本と異なり、非常に戦略的でスピードがあったことがうかがえる。

ロシアでは留学生受入に特化した大学が設立された。1960年にはロシア民族友好大学が設立され、冷戦時代から友好国の若者を集めて教育をした（Российский университет дружбы народовホームページ）。主に外国人にロシア語を教えるためのプーシキン名称ロシア語大学も1966年に設立され、一時期は海外に14の支部をもち、ロシア国内外でロシア語話者の拡大を目指した（Государственный институт русского языка им. А.С. Пушкинаホームページ）。すなわち、アジア、ラテンアメリカ、アフリカの若者に戦略的に共産主義思想やロシア語を教えるための大学を用意していたのである（Chamchiyan: 2015）。ソ連時代の留学生のための大学は、友好国の発展途上国の若者を集め、共産主義思想やロシア語を学ばせることによって、ロシアと出身国との友好関係を築くための人材育成の役割を担っていた。ロシア民族友好大学はプロジェクト5-500の大学に選定されており、留学生の受入数はロシア第1位、プーシキン名称ロシア語大学も留学生の受入数は第6位にあり、設立から50年以上たった現在も留学生教育の一翼を担っている【表4】。

【表4】外国人の受入数が多い大学（人）

| 大学名                 | 2008年 | 2011年 |
|---------------------|-------|-------|
| ロシア民族友好大学           | 5353  | 7752  |
| モスクワ国立大学            | 5776  | 3454  |
| サンクト・ペテルブルク国立大学     | 3751  | 3435  |
| サンクト・ペテルブルク国立総合技術大学 | 2402  | 2370  |
| 国立モスクワ第一医科大学        | 2335  | 2234  |
| プーシキン名称ロシア語大学       | 3708  | 2135  |
| 国立研究トムスク総合技術大学      | 1626  | 2084  |
| クルスク国立医科大学          | 1172  | 1423  |
| スモレンスク国立医療アカデミー     | 1227  | 1344  |
| モスクワ航空大学            | 945   | 1304  |

Арефьев А. Л.ほか：2014, c.31より筆者作成。

### 3 ソ連崩壊後の留学生

ソ連崩壊後のロシアでは混乱のなか、経済力の低下のみならず高等教育の質も低下し、ロシア語への関心もまた低下した。ソ連崩壊により、旧ソ連圏の言語政策は大きく変わり、この20年間でロシア語話者は、3億5千万人から2億6千万人へと大幅に減少した（Нефедова：2017）。バルト三国をはじめ、旧ソ連諸国に残されたロシア系住民は、教育や就職において不利な立場におかれることもある。

基本的に英語が通じないロシアへの留学生は、ロシア語への関心、ロシア語の習得が必要であるが、ソ連崩壊後2000年までロシアへの留学生数は減少し続けた。しかしながら、2001年以降ロ

シアへの留学生は急速に増加しはじめた。最低となった2000年の5万4500人から2015年には24万2500人と、15年間で約4.5倍に増加し、2008年のリーマン・ショックの後にも減少することはなかった。【表5】【表6】

【表5】ロシアの高等教育機関（国立・公立）で学ぶ留学生数の推移（年度開始時点、千人）

| 年度               | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 |
|------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 留学生（千人）          | 59.9 | 56.6 | 54.5 | 59.7 | 60.9 | 54.2 | 52.0 | 52.3 |
| バルト三国            | 3.0  | 0.9  | 1.0  | 3.9  | 4.2  | 1.3  | 1.6  | 1.9  |
| ヨーロッパ            | 7.2  | 6.7  | 8.8  | 5.4  | 5.5  | 6.4  | 8.8  | 6.4  |
| アジア              | 30.7 | 30.6 | 27.9 | 33.0 | 33.4 | 30.6 | 27.7 | 31.6 |
| アメリカ             | 1.6  | 1.6  | 1.8  | 2.1  | 2.2  | 1.5  | 2.1  | 1.3  |
| ラテンアメリカ          | 1.6  | 1.6  | 0.9  | 1.5  | 1.6  | 1.2  | 1.1  | 1.3  |
| カナダ              | 0.1  | 0.1  | 0.2  | 0.3  | 0.3  | 0.3  | 0.3  | 0.1  |
| アフリカ（北アフリカを除く）   | 4.8  | 4.6  | 4.1  | 5.5  | 5.6  | 4.0  | 5.1  | 4.5  |
| 近東、北アフリカ         | 11.5 | 11.2 | 9.7  | 7.7  | 7.8  | 8.8  | 5.2  | 5.1  |
| オーストラリア、ニュージーランド | -    | -    | 0.1  | 0.3  | 0.3  | 0.1  | 0.1  | 0.1  |

РОССТАТ. Российский статистический ежегодник 2003г.; 2006г. より筆者作成。

【表6】ロシアの高等教育機関（国立・公立・私立）で学ぶ留学生数の推移（年度開始時点、千人）

| 年度                | 2007  | 2008  | 2009  | 2010  | 2011  | 2012  | 2013  | 2014  | 2015  |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 留学生（千人）           | 129.6 | 131.3 | 145.9 | 153.8 | 158.4 | 164.8 | 205.7 | 221.4 | 242.5 |
| 旧ソ連諸国             | 92.5  | 94.4  | 107.8 | 116.7 | 121.8 | 127.5 | 156.3 | 175.5 | 188.1 |
| ヨーロッパ             | 1.5   | 1.8   | 1.8   | 1.3   | 1.2   | 1.3   | 1.7   | 1.8   | 2.5   |
| アジア               | 28.3  | 28.3  | 28.7  | 28.1  | 27.1  | 26.9  | 28.5  | 31.7  | 34.5  |
| ベトナム              | 3.5   | 3.1   | 2.6   | 2.4   | 2.5   | 2.9   | 2.9   | 3.1   | 3.1   |
| インド               | 4.3   | 4.3   | 3.8   | 3.4   | 3.0   | 3.1   | 3.7   | 4.4   | 5.3   |
| 中国                | 9.2   | 9.0   | 9.3   | 9.8   | 9.9   | 9.2   | 9.8   | 10.9  | 12.0  |
| 北朝鮮               | 0.4   | 0.1   | 0.2   | 0.2   | 0.2   | 0.1   | 0.2   | 0.2   | 0.2   |
| マレーシア             | 2.5   | 2.7   | 2.7   | 2.8   | 2.5   | 2.6   | 2.3   | 2.5   | 2.0   |
| モンゴル              | 1.4   | 1.6   | 1.7   | 1.8   | 1.9   | 2.0   | 2.3   | 2.2   | 2.2   |
| 韓国                | 0.6   | 0.6   | 0.7   | 0.5   | 0.5   | 0.5   | 0.4   | 0.4   | 0.5   |
| シリア               | 1.1   | 1.0   | 1.0   | 0.9   | 0.8   | 0.8   | 1.0   | 1.2   | 1.3   |
| 中南米               | 1.1   | 0.9   | 0.9   | 0.9   | 1.0   | 1.0   | 1.2   | 1.3   | 1.6   |
| 北米（アメリカ・カナダ）      | 0.1   | 0.1   | 0.1   | 0.1   | 0.1   | 0.1   | 0.2   | 0.2   | 0.2   |
| アフリカ              | 6.1   | 5.7   | 6.6   | 6.7   | 7.1   | 7.9   | 7.9   | 9.4   | 10.6  |
| ザンビア              | 0.4   | 0.4   | 0.4   | 0.4   | 0.5   | 0.5   | 0.6   | 0.6   | 0.6   |
| カメルーン             | 0.3   | 0.2   | 0.3   | 0.3   | 0.2   | 0.2   | 0.2   | 0.2   | 0.2   |
| ケニア               | 0.3   | 0.4   | 0.4   | 0.4   | 0.4   | 0.4   | 0.3   | 0.2   | 0.2   |
| モロッコ              | 0.9   | 0.9   | 0.9   | 0.9   | 0.8   | 0.9   | 0.9   | 1.1   | 1.4   |
| ナイジェリア            | 0.7   | 0.6   | 0.7   | 0.7   | 0.9   | 0.9   | 1.0   | 1.5   | 1.5   |
| 全学生における<br>留学生の割合 | 1.7   | -     | 2.3   | 2.2   | 2.4   | 2.7   | 3.6   | 4.3   | 5.1   |

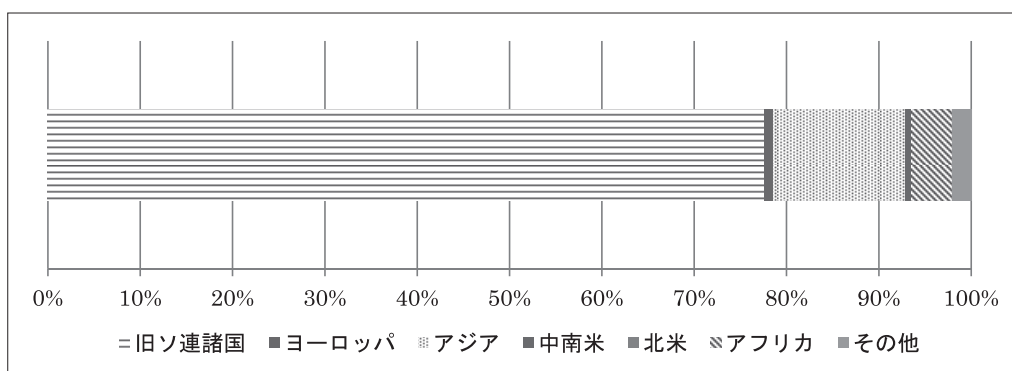
РОССТАТ. Российский статистический ежегодник 2010г.; 2012г.; 2013г.; 2016г. より筆者作成。

\* РОССТАТの留学生数の集計方法が変更されたため、【表5】と【表6】の2つの表に分けて示した。

UNESCO のデータによれば、2014年の留学生受入数の第1位はアメリカ、2位はイギリス、3位はフランス、4位はオーストラリア、5位はドイツ、そして6位にロシア、7位に日本が入っている。英語圏であるカナダが8位であることを考えれば、ロシアと日本は留学生の獲得において健闘しているといえよう（UNESCO ホームページ）。増加率という観点でみれば、2007年から2012年の5年間の留学生の増加率は、中国、カナダ、ロシアで150%をこえている（Нефедова：2017）。

留学先の大学については、ロシア民族友好民族大学やプーシキン名称ロシア語大学のような留学生向けに開校された大学だけでなく、国内トップレベルのモスクワ国立大学やサンクト・ペテルブルク大学、医療系や技術系の大学が上位を占めている【表4】。留学生を受け入れている大学のほとんどが国立大学である。地方別には、留学生の3分の1がモスクワ、7分の1がサンクト・ペテルブルクの大学に入学しており、この2都市だけでロシアへの留学者のほぼ半分を占めている。そのほかにはシベリアの学研都市とされているトムスク、ノヴォシビルスク、イルクーツク、南西部のヴォロネジ、ロストフ・ナ・ドヌ、ヴォルガグラードが多く、モスクワやサンクトペテルブルク周辺の北西部だけの人数が多いわけではない（Арефьев А.П.ほか：2014）。

留学生の劇的な増加の立役者になったのが、旧ソ連諸国からの留学生である【図4】【表7】。もちろん旧ソ連諸国では25年前までロシア語が公に使われていたのであり、ロシア語の素地をもっている点では有利な立場にある。しかし、ロシア語の使用が減少している中での留学生の増加は注目することができる。



РОССТАТ. Российский статистический ежегодник 2016г. より筆者作成。

【図4】ロシアの高等機関への留学生の出身地域（2015年）

【表7】ロシアの高等教育機関で学ぶ独立国家共同体からの留学生（年度開始時点、千人）

| 年度             | 1992  | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 |
|----------------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 独立国家共同体出身留学生全体 | 103.9 | 39.8 | 32.5 | 30.7 | 28.5 | 32.0 | 34.4 | 38.1 | 32.9 | 36.9 | 39.4 |
| アゼルバイジャン       | 5.8   | 1.7  | 1.1  | 1.0  | 1.0  | 1.0  | 1.2  | 3.1  | 2    | 0.9  | 1.1  |
| アルメニア          | 5.6   | 1.7  | 1.2  | 1.1  | 0.9  | 0.8  | 1.1  | 0.8  | 1.4  | 1    | 1.3  |
| ベラルーシ          | 9.3   | 4.4  | 3.2  | 3.1  | 3.3  | 4.2  | 3.4  | 4.3  | 2.6  | 4.8  | 4.7  |
| グルジア           | 11.4  | 3.1  | 1.9  | 1.4  | 1.2  | 0.8  | 0.8  | 0.7  | 0.8  | 0.9  | 0.9  |
| カザフスタン         | 22    | 11.6 | 11.1 | 10.7 | 11.5 | 13.6 | 16.7 | 17.9 | 16.4 | 18.1 | 19   |
| キルギス           | 4.8   | 1.7  | 1.3  | 1.2  | 0.7  | 1.0  | 1.2  | 1.2  | 0.6  | 0.7  | 0.8  |
| モルドバ           | 2.5   | 1.5  | 1.6  | 1.6  | 1.5  | 2.6  | 1.0  | 1.1  | 1.1  | 1.1  | 1.1  |
| タジキスタン         | 2.6   | 0.7  | 0.5  | 0.4  | 0.3  | 0.2  | 0.3  | 0.4  | 0.5  | 0.6  | 1    |
| トルクメニスタン       | 1.9   | 0.7  | 0.5  | 0.4  | 0.3  | 0.3  | 0.5  | 0.7  | 1.4  | 1.3  | 1.1  |
| ウズベキスタン        | 8.1   | 3.2  | 3.2  | 3.3  | 2.8  | 2.8  | 3.2  | 2.4  | 1.4  | 2.3  | 3    |
| ウクライナ          | 29.9  | 9.5  | 6.9  | 6.5  | 5.0  | 4.7  | 5.0  | 5.5  | 4.7  | 5.2  | 5.4  |

| 年度             | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014  | 2015  |
|----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 独立国家共同体出身留学生全体 | 40.7 | 45.6 | 48.2 | 54.4 | 61.8 | 73.1 | 73.1 | 81.1 | 94.9 | 109.9 | 124.0 |
| アゼルバイジャン       | 1.4  | 1.4  | 1.8  | 3.2  | 4.1  | 7.5  | 7.5  | 6.6  | 8.1  | 9.0   | 9.6   |
| アルメニア          | 1.4  | 1.8  | 1.4  | 1.6  | 2.4  | 2.3  | 2.3  | 1.9  | 2.3  | 2.4   | 2.3   |
| ベラルーシ          | 5.5  | 7    | 11.5 | 13.3 | 19.1 | 21.0 | 21.0 | 17.2 | 15.6 | 10.0  | 8.3   |
| グルジア           | 1.1  | 2    | 0.8  | 0.9  | ...  | ...  | ...  | ...  | ...  | ...   | ...   |
| カザフスタン         | 17.2 | 18   | 19   | 18.4 | 17.5 | 19.8 | 19.8 | 26.6 | 31.4 | 38.8  | 46.4  |
| キルギス           | 0.8  | 0.7  | 0.8  | 0.6  | 0.8  | 1.1  | 1.1  | 1.7  | 2.2  | 2.8   | 3.8   |
| モルドバ           | 1.4  | 1.2  | 1.3  | 1.2  | 1.3  | 1.6  | 1.6  | 1.4  | 1.8  | 2.1   | 2.2   |
| タジキスタン         | 1.2  | 1.1  | 1.2  | 1.3  | 1.8  | 2.8  | 2.8  | 3.8  | 5.0  | 6.6   | 9.4   |
| トルクメニスタン       | 1.1  | 1    | 0.8  | 0.9  | 1.9  | 3.6  | 3.6  | 7.8  | 11.0 | 12.3  | 13.4  |
| ウズベキスタン        | 4.1  | 5.3  | 4.6  | 6.4  | 7.3  | 7.3  | 7.3  | 6.8  | 8.6  | 11.1  | 14.0  |
| ウクライナ          | 29.9 | 9.5  | 6.9  | 6.5  | 5.0  | 4.7  | 5.0  | 5.5  | 4.7  | 5.2   | 5.4   |

注）2009年にグルジアは独立国家共同体から離脱した。

РОССТАТ. Российский статистический ежегодник 2003г.; 2006г.; 2010г.; 2012г.; 2013г.; 2016г. より筆者作成。

ロシア政府からの奨学金の3割は旧ソ連諸国出身者に支払われている。旧ソ連諸国からの留学生の卒業後の進路については明らかではないが、アンケート結果によれば、旧ソ連諸国出身の学生は、大学の教育レベルの高さと就職可能性が高いことによって大学を選択しており、さらに卒業後にロシアに残りたいと考えている学生が57.6%もいる。卒業後にロシアで職を見つけることを希望して、ロシアの大学に進学した可能性がある。ただしロシアでは留学生は基本的に就労することができない（Нефедова：2017）。

以上の議論より、ロシア政府は政治的な戦略をもって、旧ソ連諸国のロシアに対する忠誠心、ロシアへの求心力を再形成しようという意図が読みとれる。公にアルバイトをしながら学業を続けることができるようになれば、旧ソ連諸国やアジアの学生にとって、ますます魅力的な留学先になるのではないだろうか。旧ソ連諸国だけでなく、アジアの学生をさらにとりこもうとロシアの大学が本気で取り組むならば、同じ非英語圏である日本の大学にとって、最大のライバルになる可能性があるだろう。

次に留学生の経済効果についてみておこう。クリャチコら（Клячко：2015）は、留学生に高

額の授業料を課すオーストラリア、イギリス、ニュージーランド、アメリカを「厳しい商人」と名づけたのに対し、授業料を無料あるいは低額にしているフランスやドイツを「ゆるやかな商人」と名づけて、その経済効果を分析している。「厳しい商人」には英語圏の国々が並ぶ。留学生は当該国の学生よりも25%多く消費するといわれていることから、留学生から高額授業料を徴収している国がかなりの経済的利益をあげているのは当然であるが、留学生から授業料をとらない国であっても留学生の日常生活の消費生活から利益をあげている。

例えば「厳しい商人」であるアメリカへの留学生は、1人当たり1年間の学費に2万4914ドル、生活費に1万1651ドル、あわせて平均3万6564ドルという莫大な金額をアメリカにもたらす。一方「ゆるやかな商人」とされるフランスでは、1人当たり1年間の学費によって247ドルしかもたらされないが、生活費に1万6530ドルを費やすため、フランスに1万6777ドルをもたらす。その結果、アメリカに1年間に86億ドル、イギリスに58億ドル、オーストラリアに44億ドル、学費が低額のフランスにも44億ドルがもたらされ、大きな経済的利益をあげている。そして、ロシアへの留学生は約12億ドルをもたらしている。

留学生は、英語圏のように高い学費を徴収しない国にとっても、国に収入をもたらす金の卵なのである。ロシアを含めた先進国では、少子化によってこれまでの大学定員を満たせなくなっているが、高等教育の「輸出」、すなわち留学生を迎え入れることによって、有力な財源を獲得することができるのだ。ロシアは政治的なアプローチとして友好国の留学生のための教育に力を入れてきたが、今後さらに経済的なアプローチで、国家として留学生の受け入れに力を注いでいくことになるだろう。

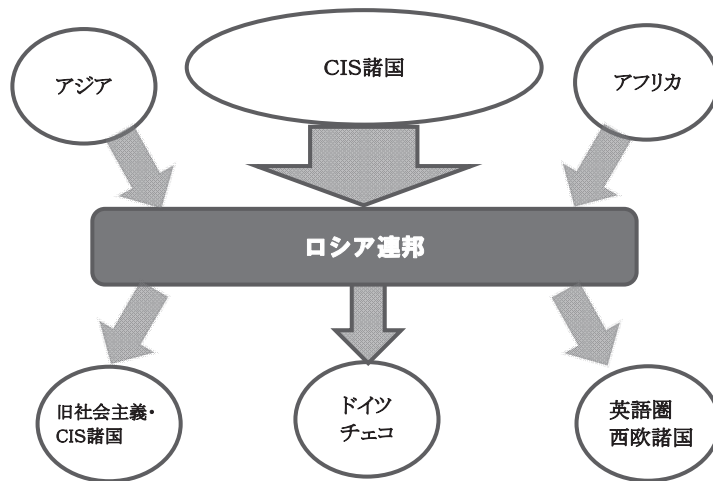
【表8】ロシアからの留学生数

|    | 国名     | 人数    |    | 国名      | 人数    |
|----|--------|-------|----|---------|-------|
| 1  | ドイツ    | 9,953 | 11 | トルコ     | 1,158 |
| 2  | チェコ    | 5,305 | 12 | アルメニア   | 1,140 |
| 3  | アメリカ   | 5,203 | 13 | カナダ     | 1,140 |
| 4  | イギリス   | 3,933 | 14 | オーストリア  | 1,128 |
| 5  | フランス   | 3,599 | 15 | カザフスタン  | 1,097 |
| 6  | フィンランド | 2,799 | 16 | スイス     | 1,011 |
| 7  | イタリア   | 2,178 | 17 | オーストラリア | 880   |
| 8  | ベラルーシ  | 1,953 | 18 | オランダ    | 794   |
| 9  | ウクライナ  | 1,814 | 19 | ポーランド   | 754   |
| 10 | キルギス   | 1,377 | 20 | イスラエル   | 750   |

UNESCO ホームページ (<http://uis.unesco.org/en/uis-student-flow>) より筆者作成。データは2013年～2015年の任意の年にとられている。

最後にロシアからの学生の海外留学、教育の「輸入」を確認することで、輸出との関係を確認しておこう。UNESCO のデータによれば、ロシアから海外留学している大学生数は約5万6000人で、上記で述べた受入数24万2500人と比べると、圧倒的な教育輸出国である。ロシア人の留学先の1位はドイツ(9,953人)、2位がチェコ(5,305人)である。プーチン大統領はKGB時代に東ドイツに派遣されてドイツ語が堪能であることは有名であるが、まず1位と2位が英語圏の国でない点が興味深い。そして3位にアメリカ(5,203人)、4位にイギリス(3,933人)と続く。ベラルーシ(8位、1,953人)、ウクライナ(9位、1,814人)、キルギス(10位、1,377人)など旧ソ

連諸国への留学も少なくない【表8】。ちなみに日本に留学しているロシア人学生は2014年に336人にすぎない（28位）。日本人の留学先の1位がアメリカ（1万5千人）で2位がイギリス（3千人）で英語圏に集中しているのに対し、ロシアは高等教育の輸出先も輸入先も英語圏に偏ることなく、独自の地域をもっている。このような輸出先と輸入先の特徴から、ロシアが国際関係上の地位を確立するための戦略が見えてくるのではないだろうか【図5】。



【図5】現在の留学生の受け入れ国と送り出し国（筆者作成）

## おわりに

今後ロシアの大学が世界的な教育市場に巻き込まれ、経済的なアプローチにますます重点をおくようになれば、どうなっていくのだろうか。西側諸国の基準に早急に合わせようとする姿勢は、ロシアの西側に対する後進性へのコンプレックスが感じられる。ピョートル大帝は17世紀から18世紀にかけて西側の技術や文化をとり入れることによって、ロシアの近代化を推し進めようとしたことで有名であり、19世紀の西欧主義の思想においても、西欧の一員になって人類の進歩に参加すべきという考え方がなされた（外川：1991）。現代ロシアによる国際機関の政策の受容やボローニャ・システムへの加入などからも、西欧を模倣し、西欧に追いつこうとする姿勢が見え隠れする。今後もさらに世界ランキングの向上を追求し、高等教育に利益や効率を求めるのであれば、これまで財政難とはいえ科学分野の基礎研究などに定評があったロシアの大学の将来は、決して明るいものではない可能性もある。

ソ連時代には教育が無償だったわけだが、そのように社会が教育を支えていた時代には、教員は知識の授与者、学生はそれをありがたく受け取るための存在であった。筆者が2000年に極東国立総合大学（現極東連邦大学）東洋学院を訪れたときのエピソードである。教員が教室に入ると、学生全員が一斉に立ち上がり、先生が着席をうながすまで、学生たちは身動きもせず、直立不動の姿勢で立ち、先生への敬意をあらわした。日本の大学の様子に慣れている筆者は非常に驚いた。教員は学生に親切であってもなれなれしい態度はとらないし、言葉遣いも厳格で、立場の違いをのりこえるようなことはなかった。しかし、10年後同じく極東連邦大学東洋学院を訪れたときには、教員と学生との緊張関係はそれほど感じられなかった。大学が教育サービスの販売に

よって成り立つようになれば、学生は当然消費者となる。日本の大学のように、教育の販売者である教員と消費者である学生との距離の近さを強調し、大学教育がサービス産業化する時代が、ロシアにもそろそろやってくるのかもしれない。

ロシアと日本はどちらも英語圏ではなく、十分に意識されていないがライバルとなりうる存在だ。ロシアの留学生の受け入れ戦略は、同じく英語圏でない日本の留学生受け入れ戦略の参考に見える点を見出すことができるかもしれない。ソ連崩壊後、ロシア経済はどん底をみたが、現在もロシアは旧ソ連地域のリーダーであり続け、旧ソ連地域からの留学生を多数受け入れている。また現・旧社会主義国とのつながりも失ってはいない。一方日本は失われた20年があったとはいえ、ロシアほどの極端な経済低迷があったわけではないが、アジアの教育的リーダーとして戦略的にふるまっているとはいえない（苑：2016）。日本が近隣諸国のリーダーとしてアジアの学生に対する教育に貢献することは、グローバル化した教育市場で生き残っていくために重要な政治的経済的戦略であることを、ロシアのケースは示唆することができるだろう。

#### 参考文献

##### <日本語>

- 石川真由美「大学ランキングと知の序列化——国際競争のなかの日本の大学」石川真由美『世界大学ランキングと知の序列化——大学評価と国際競争を問う』京都大学学術出版会、2016、1-33。
- 苑復傑「中国、日本、韓国——「東アジア域内留学圏」をめざして」松塚ゆかり『国際流動化時代の高等教育——人と知のモビリティを担う大学』ミネルヴァ書房、2016、103-120。
- 荻谷剛彦「高等教育のグローバル競争とキャッチアップ終焉意識」石川真由美『世界大学ランキングと知の序列化——大学評価と国際競争を問う』京都大学学術出版会、2016、99-129。
- 清水真木「もし日本のすべての大学の授業が英語で行われたら」『中央公論』2015年2月号、142-147。
- JMOOC ホームページ (<https://www.jmooc.jp/> 2017年9月20日)
- 館昭「ボローニャ・プロセスの意義に関する考察——ヨーロッパ高等教育圏形成プロセスの提起するもの」『名古屋高等教育研究』第10号、2010、161-180。
- 外川継男『ロシアとソ連邦』講談社学術文庫、1991。
- 松塚ゆかり「人材国際流動化時代の大学改革——地域比較・事例研究によるアプローチ」松塚ゆかり『国際流動化時代の高等教育——人と知のモビリティを担う大学』ミネルヴァ書房2016、1-19。
- ミヤグマル・アリウントヤル「モンゴル——高等教育改革と海外人材育成の模索」松塚ゆかり『国際流動化時代の高等教育——人と知のモビリティを担う大学』ミネルヴァ書房、2016、121-142。
- ラヴィーニュ、マリー著、栖原学訳『移行の経済学——社会主義経済から市場経済へ』日本評論社、2001。（Lavigne M. *The Economics of Transition From Socialist Economy to Market Economy*, Macmillan press, 1995.）
- レディングズ、ビル著、青木健、斎藤信平訳『廃墟のなかの大学』法政大学出版会、2000。（Readings B. *The University in Ruins*, Harvard University Press, 1997.）

##### <ロシア語>

- Арефьев А. Л., Ф. Э. Шереги. Иностранные студенты в Российских вузах. М. Центр социологических исследований. 2014.
- Государственный институт русского языка им. А. С. Пушкина ホームページ (<http://www.pushkin.institute/> 2017年9月20日)
- Дальневосточный федеральный университет ホームページ (<https://www.dvfu.ru/> 2017年9月20日)
- Клячко Т. Л., Г. А. Краснова. Экспорт высшего образования: состояние и перспективы в мире и России // Экономика образования. 2015. Т. 1. № 2. 102-108.
- Министерство образования и науки Российской Федерации ホームページ. Проект повышения

конкурентоспособности ведущих российских университетов среди ведущих мировых научно - образовательных центров. (<https://5top100.ru/> 2017年9月20日)

Национальный исследовательский университет: Высшая школа экономики ホームページ (<https://www.hse.ru/> 2017年9月20日)

Нефедова А. И. Масштабы, структура и цели экспорта российского высшего образования // Мир России. Т. 26. № 2. 2017. С. 154-174.

Российский университет дружбы народов ホームページ (<http://www.rudn.ru/> 2017年9月20日)

РОССТАТ. Российский статистический ежегодник 2003г.

РОССТАТ. Российский статистический ежегодник 2006г.

РОССТАТ. Российский статистический ежегодник 2010г.

РОССТАТ. Российский статистический ежегодник 2012г.

РОССТАТ. Российский статистический ежегодник 2013г.

РОССТАТ. Российский статистический ежегодник 2016г.

РОССТАТ. Социальное положение и уровень жизни населения России 2009 г.

РОССТАТ. Социальное положение и уровень жизни населения России 2015 г.

<英語>

Academic Ranking of World Universities ホームページ

(<http://www.shanghairanking.com/index.html> 2017年9月20日)

Chamchiyan A. "Past, Present, and Future of Higher education Internationalization in Russia", *International Higher Education*, No. 83, 2015, 20-22.

Gounko T. and W. Smale, "Modernization of Russian higher education: exploring paths of influence", *Compare*, Vol. 37, No. 4. August 2007, PP. 533-548.

Kodin E. "Problems of Private Higher Education in Russia", *International Higher Education*, No. 6, December 1996, 11-12.

Kuzminykh, K. "“Global Classroom” Experiment at Higher School of Economics: Who Takes MOOCs offered by Russian Universities?", *Higher Education in Russia and Beyond*, No. 1 (3), Spring 2015, 8-9.

OECD データ ホームページ (<https://data.oecd.org/> 2017年9月20日)

THE World University Rankings ホームページ

(<https://www.timeshighereducation.com/> 2017年9月20日)

UNESCO ホームページ (<http://uis.unesco.org/en/uis-student-flow> 2017年9月20日)

<付記>

本研究は、2010-2012年度科学研究費補助金（若手研究（B））「ロシアの社会変動と若年層の意識にかんする研究——社会調査データの検討を通じて」の成果の一部である。